

第6学年 道徳学習指導案

1 主題名 目標に向かって 1－(2) 希望・勇気・不撓不屈

2 資料名 「夢をつかまえよう！」(東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

第5学年及び第6学年の内容項目1－(2)は「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。」である。これは、自分の夢や目標の実現に向けて、最後まであきらめず努力してこうとする強い意志と実行力を育てることをねらいとしている。そして、中学校の1－(2)「より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。」に発展していくものである。

人としてよりよく生きるためには、常に向上しようとし、より高い目標の実現に向けて努力することが大切である。努力の過程には、様々な失敗や挫折がある。それを乗り越えていくことで達成感を得ることができ、自分への自信や生きる喜びを感じることができるのである。しかし、小学校高学年の子どもたちは、夢を抱きながらも現実との違いを意識する時期とも言われ、困難や失敗に出会うと、すぐにあきらめてしまうこともしばしばある。従って、希望をもつことの大切さ、挑戦し続けることの大切さに気付かせ、目標に向かって、ねばり強く努力し、一歩ずつ前進してこうとする心情を育てたい。

(2) ねらいに関わる児童の実態について

本学級の子どもたちは、学級目標「心ひとつに一步前進 最高の卒業式」を掲げ、最高学年として様々なことに意欲的に取り組んでいる。また、2学期に立てた大縄連続150回を達成し、連続300回というより高い目標に向かって練習を続けている。2学期の個人の目標や、1日の目標、習い事の目標などに向かって日々努力している児童もいる。

しかし、目標に向かって地道に努力することを面倒くさがったり、楽な道を選んでしまったり、高い目標に対しては最初からできないとあきらめてしまったり、少々の失敗であきらめたりしてしまうことも少なくない。

(3) 資料について

本資料「夢をつかまえよう！」は、クラスでドッジボールの全国大会出場を目指そうという目標を掲げ、練習に励むことから始まる。大会当日、主人公ゆうじのミスにより予選で負けてしまい、全国大会出場という夢は絶たれ、ゆうじはドッジボールをすること自体がいやになる。しかし、担任の先生からの呼びかけに対して、迷った末に、もう一度全国大会に出場することを決意し、再挑戦していくお話である。ゆうじの心の葛藤に共感させながら、夢や希望をもち、より高い目標に向かって努力することの大切さに気づかせたい。

(4) 指導にあたって

本主題の指導にあたっては、まず導入段階において事前に行ったアンケートの結果を提示し、自分の夢や目標について話し合いながら、主人公の気持ちや行動に共感する心構えをつくる。

次に、展開前段では、資料の前半を読ませ、どの子も内容を捉えられるように挿し絵を使ってあらすじをつかませた後、次のドッジボールの試合に挑戦するか、挑戦しないか迷う主人公の心情に迫らせる。ここでは、「自分だったらどうするか」という立場で考えさせることで、主人公の心の迷いに共感させ、子どもたちの本音を表出させたい。その際、自分の考えを根拠を示しながら道徳プリントに書かせる。そして、どの子も自分の考えを話せるようにし、同じ考えの子同士が理由を広めたり深めたりできるようにするために少人数での交流を取り入れる。また、心の状態を視覚的に示す「心のもさし」を活用しながら、自分の考えが友だちによりわかりやすく伝えられるようにする。

展開後段では、資料の後半を読ませ、主人公が葛藤を振り払って夢に向かって進もうとする姿を通して、あきらめずに努力することの大切さについて話し合い、結果だけでなく失敗を乗り越えてより高い目標に向かって努力する過程に価値があることに気付かせる。また、教師の高校時代の体験を話し、努力したことは自分の自信につながることや、資料中の言葉の「がんばれば、きっとできるよ。」という思いを子どもたちに伝える。

終末では、導入時に提示したアンケートを再度ふり返り、今まで努力してよかったことやこれからがんばりたいことへの価値づけを図るとともに、本時学習で学んだ道徳的価値観を自分の生活とつなげることで各自の道徳的実践意欲を高めていく。

4 本時のねらい

夢や目標の実現のためには、失敗を乗り越えて挑戦し続けることが大切であることに気づき、夢や目標に向かってあきらめずに努力していこうとする心情を育てる。

5 準備物

アンケート結果・挿絵・資料・道徳プリント・心のものさし・ネームプレート・教師の写真(説話用)

6 展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1 自分の生活を想起し、本時のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ぼくは秋のソフトの試合で優勝できるように練習を頑張っています。 ・ 私は跳び箱で台上前転ができるように頑張っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 捉えさせたい価値の方向づけのために事前に行ったアンケート結果を提示し、自分の夢や目標について話し合わせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">めあて 夢や目標を実現するときに、大切な心を見つけよう。</div>			
展開	<p>2 資料「夢をつかまえよう！」を聞き、ぼくの気持ちを考える。</p> <p>(1) 自分だったら次の大会にもう一度出るか、もう出ないか考え、話し合う。</p> <p>(2) 「…ぼくは、やりたい…」と言ったぼくの気持ちを考える。</p> <p>3 教師の話聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分だったら次の大会にもう一度出ますか。もう出ませんか。 ・ 私だったら出ません。また自分のせいで負けたら嫌だからです。 ・ 私も出ません。周りのみんなもやる気を失っているからです。 ・ ぼくは出ます。まだチャンスがあるのにあきらめたくないからです。 ・ ぼくも出ます。全国大会出場という目標を達成したいからです。 ○ 「…ぼくは、やりたい…」と言ったぼくはどんなことを考えていたでしょう。 ・ あきらめないぞ！ ・ 次こそは全国大会に行くんだ ○ どうしてあきらめずに努力することが大切なのでしょう。 ・ 努力しないと夢はかなえられないからです。 ・ 努力はきついけど、その分自分に自信がつくし、目標が達成できたとき嬉しくなるからです。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ どの子も資料の場面を捉えられるように挿し絵を使って話のあらすじをつかませ、ぼくの気持ちに共感させる。 ○ 友達の考えと自分の考えの違いを視覚的に捉えることができるように心のものさしを使って考えを表現させる。 ○ 子どもたちが自分の考えを進んで発言できるように、書く活動の際に声をかけ共感しながら机間指導をする。 ○ どの子も自分の考えを表現でき、考えの理由を広めたり深めたりできるようにするために、少人数での交流を行う。 ○ 考えが整理され、視覚的に捉えやすいように板書を工夫する。 ○ 子どもたちが安心して発言できるように、暖かく受け止めながら聞く。 ○ 努力することは自信がついたり、喜びに変わったりすることに気づかせるために、あきらめずに努力することがなぜ大切か考えさせる。 ○ 道徳的実践意欲を高めるために教師の経験を話す。
終末	3 自分の生活を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今までの自分を振り返り、努力してよかったことやこれからがんばりたいことを書きましよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ どの子も自分を振り返って考えが書けるように、日々の子どもの頑張りや成長を把握しておき、書けない子へは声をかける。